現実を表現する犬

Ban’ya Natsuishi / Nacuisi Banja / 夏石番矢

『KUTYÁK / DOGS / 犬 50 HAIKU / 俳句』

(Aquarelles by Éva Pápai, English translations by Ban’ya Natsuishi & Jim Kacian, Hungarian translations by Judit Vihar, BALASSI KIADÓ, ISBN: 978-963-456-958-6, Hungary, 2019)

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　乾　佐伎

Saki INUI

この句集は、夏石番矢とハンガリーの画家エーヴァ・パーパイとのコラボによる本であり、『鳥　５０俳句』（二〇〇七年）『海の世界』（二〇一一年）に続く第三弾である。この本は、日本語、英語、ハンガリー語の三言語で五十種類の犬を詠んでおり、日本語は活字と夏石による墨書の両方が印刷されている。五十種類の犬を詠み分けるのはまさに名人芸である。また、パーパイは色鮮やかな色彩を用いて夏石の世界を表現している。

犬と言えばどんなイメージであろうか。「可愛い」であろうか、それとも「従順」であろうか。しかし、夏石が俳句で表現する犬達はそれだけではない。夏石の犬達は現実を綺麗事だけで終わらせない。

　　シベリアン・ハスキーの目は麻薬である

　日本でかつて巻き起こった「ハスキー犬ブーム」の時、多くの人々はシベリアン・ハスキーを見ては「可愛い」と言った。シベリアン・ハスキーを飼う人が増えた。しかしブームとは麻薬のようなものである。ハイになっているうちはいいが、人は現実に引き戻され、また次の麻薬（＝ブーム）を求める。そうなるともうシベリアン・ハスキーに用はなく、捨てられて社会問題にもなった。この鋭い目をしたシベリアン・ハスキーの絵は、私達に同じ過ちを犯すなと訴えているように感じた。

　　太陽の落とし子草原のポメラニアン

　素直に読んで、爽やかで明るい句である。パーパイの描くポメラニアンも赤茶色で可愛らしい。赤茶色のポメラニアンが無邪気に草原を駆け回っている様子が目に浮かぶ。

夏石の句集の特徴として、時々表現される爽やかさ、明るさが句集に深みを増していることがある。例えば、第一句集『猟常記』（一九八三年）でも「そよかぜや花びらが持つ」が重たい句集の中で明るさを醸し出している。

ジュリエットの幽霊マルチーズを抱いて歌う

　幽霊になったということは、ジュリエットは成仏できていないということである。
　なぜ成仏できていないのか。仏教の世界では成仏するということは煩悩や苦悩がなくなって幸福になるという意味で使われる。ジュリエットはロミオへの思いをマルチーズを抱きながら、どこかの窓辺で一人で愛を未だに歌っているのではないだろうか。『ロミオとジュリエット』では恋する二人が死という結末を迎えることで両家は和解する。ジュリエットは浮かばれないであろう。マルチーズは世界最古の愛玩犬であり、ジュリエットの愛情を象徴している。

　　ブラッドハウンド犯人の悲しみを嗅ぐ

　犯人は何か悪事を働いたから犯人になる。犯罪が許されるわけではなく、犯人の事情は考慮しなくて良いという考え方が社会には存在している。「自由な社会なのだから厳罰に処するべき。」という意見も実際に聞いたことがある。

しかし、ブラッドハウンドは高貴な嗅覚を持った犬である。夏石の犬は、犯人の過去や事情の中に潜む悲しさをも嗅ぎとるのだ。犯人を生み出した社会に原因がないとは言えない。事件を二度と起こさないためにも犯罪が起きた背景から目を背けてはいけない。夏石の犬には犯人を犯人としてだけではなく、一人の人間として見る思慮深さがある。この句は、人々に今以上の思慮深さがあれば、社会をもっと良くしていくことができるはずだと表現していると感じた。

　　夢遊病のスヌーピーの華麗なスピン

少々不気味なスヌーピーの絵が描かれているが、スヌーピーは人間並みの頭脳を持つ犬であり、飼い主であるチャーリー・ブラウンと共にコミック『ピーナッツ』に登場する。
　句の中で、スヌーピーは夢遊病のままスケートをして華麗なスピンをする。スヌーピーはきっと起きて精一杯スケートしているときよりも、眠っていて無意識のときのほうがスピンが格好良く決まるのではないだろうか。チャーリー・ブラウンは言う。「みんながボクを笑ってるような気がするんだ…」「ボクが笑わせようとする時だけは、みんな笑わない」と。

私の場合、例えば考えに考えてできた俳句よりも、ふと思い付いた俳句の方がしっくり来る時がある。少々悲しい現実ではあるが、俳人は俳句を作らねばならない。お茶目な句である。

五句を取り上げたが犬の表面的な可愛さではなく、犬を通して現実や悲しみを表現した句が多い。例えば、ブームは悲劇を生み、犯人も一人の人間であることが表現されている。また、どの犬の句も、犬が句を引き立て、逆に句が犬を引き立てている。夏石の句とパーパイの絵も同様の効果を上げている。夏石番矢は、犬を通じて私達に現実を突きつける。